

本報告書で使用する語句の意味

本報告書では、次の語句については、以下の意味で使用する。また、「富士山ハザードマップ検討委員会報告書 平成16年6月」についても参照のこと。

火砕サージ

主に熱い空気や火山ガスなどの気体と、火山灰・小さな噴石などが混じって高速で広がる現象。一般に火砕流よりも温度が低く、流れの密度も希薄である。(火砕流に伴って発生するものやマグマ水蒸気爆発によって発生するものなど発生要因は様々である。)

火砕流

火山灰や大小様々な岩石が高温の火山ガスや取り込んだ空気と一団となって時速数十～100km以上の速度で斜面を流下する現象。

火山ハザードマップ

危険な状況や破壊を引き起こす可能性のある火山噴火あるいは関連する事象を火山ハザードといい、これを図示したものを火山ハザードマップとよぶ。富士山における火山ハザードマップにはドリルマップと可能性マップがある。

(本報告書ではそのほか、溶岩流、火砕流などの個々の火山現象の影響想定範囲を重ねて表示した「ハザード統合マップ」を掲載している。)

火山防災マップ

火山防災マップは、火山ハザードマップに、防災上必要な情報(避難計画に基づく避難対象地域、避難先、避難経路、避難手段等に関する情報のほか、噴火警報等の解説、住民や一時滞在者等への情報伝達手段等)を付加して作成したものである。

火山リスク

火山噴火あるいは関連する事象によって引き起こされる可能性のある人身の被害(死傷)や財産の損失その他の経済的損害。ハザード×発生確率、損害額×発生確率などの様々な定義による。

可能性マップ

各計算開始点からのドリルマップを重ね合わせて作図した包絡線により、溶岩流、火砕流、融雪型火山泥流などの火山現象が及びうる最大範囲や最小到達時間を網羅的に可能性領域として示したマップ。

岩屑なだれ

山体崩壊によって崩壊した土石が一团となって山腹を高速で流下する現象。

降灰

噴火によって火口から空中に噴出された火山灰が地表に降下する現象。(火山灰は直径 2 mm 以下の破砕された岩片を指す。)

山体崩壊

高粘性マグマの貫入や爆発的な噴火、地震が原因により火山などの山体が大規模に崩壊すること。

ストロンボリ式噴火

粘性の低いマグマを噴出する際に、数秒～数分の間隔で起きるやや爆発的なタイプの噴火。溶岩のしぶきや火山灰、噴石、火山弾などが放出される。

雪泥流

せつでいりゅう

スラッシュなだれなどと呼ばれ、雪と土砂が一体となって流下する現象。

土石流

降雨などが引き金となって、土石と水が渾然一体となって時速数十 km の速度で流下する現象。

ドリルマップ

溶岩流、火砕流などの個々の火山現象を数値シミュレーションなどによって描いた分布図。噴火時の応急対策を検討する際の演習問題図という性格を有することから「ドリルマップ」という。

プリニー式噴火

多量の軽石や火山灰、スコリアを連続的に空高く噴出するタイプの爆発的噴火。成層圏にまで達するような巨大な噴煙を上げる場合もある。

ブルカノ式噴火

主に安山岩質火山でみられる、噴石や火山灰を単発的に放出するタイプの爆発的噴火。

噴石

噴火時に火口から放り飛ばされる直径 2mm 以上の岩片・岩塊の総称。気象庁の定義では、防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでおり、防災上の観点から噴石の大きさにより「大きな噴石」及び「小さな噴石」に区分している。

概ね 20～30cm 以上の、風の影響をほとんど受けず弾道を描いて飛散するものを「大きな噴石」という。

融雪型火山泥流

山腹につもった雪が火砕流などの熱で溶けて、斜面の土石を取り込んで時速数十 km の速度で流下する現象

溶岩流

火口から流出した溶岩が地表を流れ下る現象。

(溶岩の性質によって流れる速さや厚さは大きく変化する。)

割れ目火口

線状に開口した複数の火口からなる火口のこと。富士山の場合は、山頂から放射状に伸びる傾向がある。

(五十音順)